

「思考スキル」は、問題に取り組むことを通じて、みなさんに身につけてほしい力を表したものです。思考スキルは、特定の問題に限らず、さまざまな場面で活用することができる大切な力です。問題につまずいたときには、思考スキルに着目してみましょう。どのような切り口で問題と向き合えばよいのか、どのように考え進めればよいのか…など、手がかりをとらえるのに役立ちます。問題に取り組むとき、活用してみましょう。

## 思考スキル

### ○情報<sup>じょうほう</sup>を獲得<sup>かくとく</sup>する

- ・問題文から情報<sup>じょうほう</sup>や問題<sup>もんだい</sup>の条件<sup>じょうけん</sup>を正しくとらえる
- ・図やグラフなどから情報を正しくとらえる

### ○再現<sup>さいげん</sup>する

- ・計算を正しく行う
- ・問題の指示<sup>しじ</sup>通りの操作<sup>そうさ</sup>を正しく行う

### ○調べる

- ・方針<sup>ほうしん</sup>を立て、考えられる場合をもれや重複なく全て探し出す
- ・書き出すことを通じて、法則<sup>ほうそく</sup>を発見する

### ○順序<sup>じゅんじょ</sup>立てて筋道<sup>すじみち</sup>をとらえる

- ・変化する状況<sup>じょうきょう</sup>を時系列<sup>じけいれつ</sup>で明らかにする
- ・複雑な状況<sup>ふくざつ</sup>を要素<sup>ようそ</sup>ごとに順序立てて整理する
- ・前問が後に続く問いの手がかりとなっていることを見ぬく

### ○特徴<sup>とくちょう</sup>的な部分<sup>ぶぶん</sup>に注目する

- ・等しい部分に注目する
- ・変化しないものに注目する
- ・際立った部分<sup>きわだ</sup>(計算式<sup>けいさんしき</sup>の数、素数<sup>そすう</sup>、約数、平方数、…など)に注目する
- ・和、差や倍数関係に注目する
- ・対称性<sup>たいしょうせい</sup>に注目する
- ・規則<sup>きそく</sup>や周期に注目する

### ○一般<sup>いっぱん</sup>化する

- ・具体的な事例<sup>じしよ</sup>から、他の状況にもあてはまるような式<sup>みちび</sup>を導き出す
- ・具体的な事例<sup>じしよ</sup>から、規則<sup>きそく</sup>やきまりをとらえて活用する

### ○視点<sup>してん</sup>を変える

- ・図形を別の視点で見る
- ・立体を平面的にとらえる
- ・多角的な視点で対象をとらえる

### ○特定<sup>じようきよう</sup>の状況<sup>じょうきよう</sup>を仮定<sup>かてい</sup>する

- ・「極端<sup>きょくたん</sup>な場合を想定して考える(もし全て○○なら、もし○○がなければ、…など)
- ・不足<sup>おびな</sup>を補ったり、余分<sup>よぶん</sup>を切りはなしたりして全体をとらえる
- ・複数<sup>ふくすう</sup>のものが移動<sup>いどう</sup>するとき、特定のものだけを移動させて状況をとらえる
- ・具体的な数をあてはめて考える
- ・解答<sup>かいとう</sup>の範囲<sup>はんい</sup>や大きさの見当をつける

## 思考スキル

### ○知識<sup>ちしき</sup>

- ・ 情報を手がかりとして、持っている知識<sup>ちしき</sup>を想起する
- ・ 想起した知識<sup>ちしき</sup>を正しく運用する

### ○理由

- ・ 筆者の意見や判断<sup>はんだん</sup>の根拠<sup>こんきょ</sup>を示す<sup>しめ</sup>
- ・ ある出来事<sup>げんじ</sup>の原因<sup>げんいん</sup>、結果<sup>けいこ</sup>となることを示す<sup>しめ</sup>
- ・ 現象<sup>げんしょう</sup>の背後<sup>はいご</sup>にあることを明らかにする

### ○置き換え<sup>か</sup>

- ・ 問いを別の形で言い表す
- ・ 問題<sup>じょうきよう</sup>の状況を図表などに表す
- ・ 未知<sup>し</sup>のものを自分が知っている形で表す
- ・ 具体的な数<sup>ひ</sup>と比<sup>ひ</sup>を自由に行き来する

### ○比較<sup>ひかく</sup>

- ・ 多角的な視点<sup>してん</sup>で複数のことがらを比べる<sup>くら</sup>
- ・ 複数のことがらの共通点<sup>きょうつてん</sup>を見つけ出す
- ・ 複数のことがらの差異<sup>さいい</sup>を明確<sup>めいかく</sup>にする

### ○分類

- ・ 個々の要素<sup>こ</sup>によって、特定のまとまりに分ける
- ・ 共通点<sup>きょうつてん</sup>、相違点<sup>さういてん</sup>に着目<sup>てきもく</sup>して、情報を切り分けていく

### ○具体・抽象<sup>ちゅうしやう</sup>

- ・ 文章から筆者の挙げる例、特定の状況<sup>しんじょう</sup>や心情を取り出す
- ・ ある特徴<sup>とくちよう</sup>を持つものを示す<sup>しめ</sup>
- ・ 個々の事例<sup>じ</sup>から具体的な要素<sup>のぞ</sup>を除いて形式化する
- ・ 個々の事例<sup>じ</sup>から共通する要素<sup>きょうつう</sup>を取り出してまとめる

### ○関係づけ

- ・ 情報<sup>じほう</sup>どうしを結び付ける
- ・ 要素間の意味<sup>いみ</sup>を捉え<sup>とら</sup>、情報<sup>じほう</sup>を補う<sup>おぎな</sup>
- ・ 部分<sup>ぶぶん</sup>と全体のそれぞれが互<sup>たが</sup>いに与えあう影響<sup>えいきやう</sup>に目を向ける
- ・ ある目的<sup>しゆだん</sup>のための手段<sup>しゅだん</sup>となることを見つけ出す

### ○推論<sup>すいろん</sup>

- ・ 情報<sup>じほう</sup>をもとに、論理的<sup>ろんりてき</sup>な帰結<sup>きけつ</sup>を導き出す
- ・ 情報<sup>じほう</sup>をもとに、未来<sup>みらい</sup>・過去<sup>かこ</sup>のことを予測<sup>よそく</sup>する
- ・ 情報<sup>じほう</sup>を活用<sup>かっくわ</sup>して、さらに別の情報<sup>じほう</sup>を引き出す

# 小学5年 基礎力テスト(国・算) —— 解答と解説

## 算数（国語と算数あわせて40分）

1

|     |      |     |      |     |                |
|-----|------|-----|------|-----|----------------|
| (1) | 5405 | (2) | 5024 | (3) | 14             |
| 21  |      | 22  |      | 23  |                |
| (4) | 3.05 | (5) | 1.57 | (6) | $6\frac{4}{5}$ |
| 24  |      | 25  |      | 26  |                |

2

|     |      |     |    |        |       |      |   |
|-----|------|-----|----|--------|-------|------|---|
| (1) | 1500 | (2) | 12 | 個      | (3)   | 6.25 | L |
| 27  |      | 28  |    | 29     |       |      |   |
| (4) | 10   | (5) | 3  | 月と     | 4     | 月の間  |   |
| 30  |      |     |    | (完答)31 |       |      |   |
| (6) | ①    | 130 | 本  | ②      | 34250 | 円    |   |
| 32  |      | 33  |    |        |       |      |   |

3

|     |       |     |                    |     |        |
|-----|-------|-----|--------------------|-----|--------|
| (1) | 24 cm | (2) | 90 cm <sup>2</sup> | (3) | 106 cm |
| 34  |       | 35  |                    | 36  |        |

4

|     |   |     |   |     |   |
|-----|---|-----|---|-----|---|
| (1) | 6 | (2) | 6 | (3) | 6 |
| 37  |   | 38  |   | 39  |   |

# 国語

（国語と算数あわせて四十分）

|     |    |
|-----|----|
| 問一  | 51 |
| ①   |    |
| 向   | 40 |
| ②   |    |
| 深   | 41 |
| ③   |    |
| 連   | 42 |
| ④   |    |
| 不思議 | 43 |
| ⑤   |    |
| 結局  | 44 |

|    |    |
|----|----|
| 問二 | 45 |
| イ  |    |
| 問三 |    |
| ウ  | 46 |
| 問四 |    |
| 金  |    |
| 色  |    |
| の  |    |
| カ  |    |
| タ  |    |
| ツ  |    |
| ム  |    |
| リ  | 47 |

|    |    |
|----|----|
| 問五 | 48 |
| イ  |    |
| 問六 |    |
| ア  | 49 |

|      |    |
|------|----|
| 問七   |    |
| A    |    |
| わ    |    |
| か    |    |
| っ    |    |
| て    |    |
| い    |    |
| る    |    |
| B    |    |
| ひ    |    |
| と    |    |
| り    |    |
| ぼ    |    |
| っ    |    |
| ち    |    |
| (完答) | 50 |

|    |    |
|----|----|
| 問八 |    |
| ア  | 51 |
| 問九 |    |
| イ  | 52 |

(配点)

算数

① 各2点×6=12点

② (1)~(5) 各2点×5=10点、(6) 各3点×2=6点

③ (1) 3点、(2)(3) 各4点×2=8点

④ (1) 3点、(2)(3) 各4点×2=8点

国語

問一……各2点×5=10点

問二～問九……各5点×8=40点

計100点

【解 説】

② いろいろな文章題

(1) **A1** 再現する

「百の位まで」→十の位が5なのでくり上がり、1500

(2) **A1** 再現する

$(281 + 7) \div 24 = \underline{12(\text{個})}$

(3) **A1** 再現する

$1.25 \times 5 = \underline{6.25(\text{L})}$

(4) **A2** 再現する 順序立てて筋道をとらえる

ある数を□にして式を立てると、 $\square \div 6 = 8$ あまり2 より、 $\square = 6 \times 8 + 2 = 50$

正しい答えは、 $50 \div 5 = \underline{10}$

(5) **A2** 情報を獲得する 特徴的な部分に注目する

目もりの差がいちばん大きかったのは、グラフのかたむきのいちばん大きい7度で、

3月と4月の間

(6) **A2** 情報を獲得する 順序立てて筋道をとらえる

① たて、横3つのます目のうち、2つがわかっている

れば、のこりの1つもわかります。

$\text{ア} = 57 - 25 = 32$  (本)

$\text{イ} = 55 - 25 = 30$  (本)

$\text{ウ} = 30 + 43 = 73$  (本)

$\text{エ} = 32 + 43 = 75$  (本)

$\text{オ} = 57 + 73 = 55 + 75 = \underline{130(\text{本})}$

売れた花の本数(本)

|        | 午前 | 午後 | 合計 |
|--------|----|----|----|
| バラ     | 25 | イ  | 55 |
| チューリップ | ア  | 43 | エ  |
| 合計     | 57 | ウ  | オ  |

② 売れたバラの合計金額<sup>きんがく</sup> $= 350 \times 55 = 19250$  (円)

売れたチューリップの合計金額 $= 200 \times 75 = 15000$  (円)

全体の合計 $= 19250 + 15000 = \underline{34250(\text{円})}$

### ③ 平面図形

(1) **A1** 再現する

$36 = 6 \times 6$  より、1辺の長さ6 cm、まわりの長さは、 $6 \times 4 = \underline{24} \text{ (cm)}$

(2) **B1** 特徴的な部分に注目する 順序立てて筋道をとらえる

イの面積は、 $36 \times 2 = 72 \text{ (cm}^2\text{)}$

ウの面積は、 $198 - (36 + 72) = \underline{90 \text{ (cm}^2\text{)}}$

(3) **B1** 特徴的な部分に注目する 順序立てて筋道をとらえる

イの横の長さは、 $36 \times 2 \div 6 = 12 \text{ (cm)}$

イのまわりの長さは、 $(6 + 12) \times 2 = 36 \text{ (cm)}$

ウの横の長さは、 $6 + 12 = 18 \text{ (cm)}$

ウのたての長さは、 $90 \div 18 = 5 \text{ (cm)}$

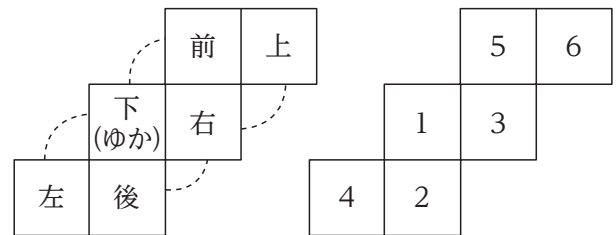
ウのまわりの長さは、 $(5 + 18) \times 2 = 46 \text{ (cm)}$

ア+イ+ウ  $= 24 + 36 + 46 = \underline{106 \text{ (cm)}}$

### ④ 立体図形

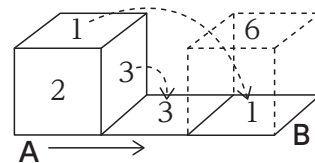
(1) **A2** 情報を獲得する 置き換え

右の図のように、自分のいる教室のかべにたとえて平行、すいちょくな面を考えると、1と平行なのは6



(2) **B1** 置き換え 特定の状況を仮定する

右の図のように、まず目に接する面のサイコロの目の数をかいていくと、**B**のまず目に接するのは1の目なので、いちばん上の面の目の数は、1と平行になる6 → もとの上と下が逆になります。

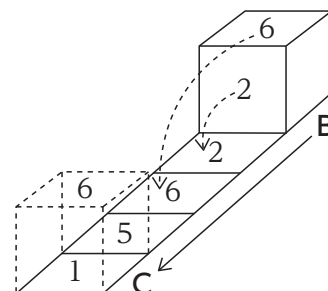


(3) **B1** 特定の状況を仮定する 順序立てて筋道をとらえる

(2)で、2回転がすと上下が逆になるので、

4回転がすと、目はもとにもどります。

いちばん上の面の目は6になります。



黒川裕子『奏のフォルテ』（講談社）から出題しました。「ぼく」は、突出した才能があるがゆえに、周囲から距離をおかれ、ブラスバンド部で「ひとりぼっち」になってしまします。自分が演奏すれば、周囲を傷つけ、自分も傷つきのに、どうしても音楽から離れられない自分に気づくまでのできごととそれに伴う「ぼく」の心情の変化を読みとりましょう。

問一 A2 知識

小学四年生までに習う漢字が出題されています。とめやはねに注意して丁寧な字で書きましょう。

問二 B1 知識 関係づけ

①の直前に「またか」とあるので、これまで何回も繰り返されたことなのだとわかります。よって、ここにはイ「うんざり」が入ります。

問三 B1 理由 推論

「ぼく」はCDで聞いたとおりに吹いているだけであって、「速く」吹いているわけではありません。周りの子どもたちが譜面どおりのスピードで演奏できないだけです。その観点から見れば、ヒゲクマの「なぜ速く吹くのか」という質問自体がおかしいのです。それに気づいて、聞き方が悪かったとヒゲクマは思い「苦笑」したのです。答えはウです。ア「自分のテクニクをひけらかすかのような、鼻につく演奏」、イ「『ぼく』だけが譜面どおりに吹けていることを周りの子どもたちに伝えたい」、エ「ピリピリとした子どもたちを和ませるために『ぼく』に話しかけた」の部分がそれぞれ本文の内容とあいません。

問四 B1 関係づけ

線③を含む段落に、フレンチホルンの見た目の説明として「金属製のカタツムリみたいな形の本体：朝顔みたいな大きなベルがついている」とあります。このたとえと似た表現をここよりあとの本文中から探します。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五 B1 推論

線④の直前に「どうしようかと」とあるので、この「目配せ」は、こ

こで教室を出ていった男子たちに自分たちも続くかどうか、女子は互いの出方を確認しあっているのだと考えられます。ですから答えはイです。ヒゲクマが促すとすぐに教室から出ていることから、帰るか、教室に残るか相手の出方を見ていたのでしょう。ア「慰めよう」、ウ「『ぼく』のことは見直している」、エ「おもしろがっている」は本文の内容からは読み取れません。

問六 B1 知識 関係づけ

「さじを投げる」とは、仕事をしていて、思うように結果を出せないときや、これ以上方法が見つからなくて、その仕事をあきらめるときにつかいます。イは「あきらめる」というニュアンスがないので不適切です。また「ちっともまとまらない子どもたちにさじを投げて」とあるので、対象が「ぼく」だけであるウも不適切です。このブラスバンドがまとまらないのは、「ぼく」にほかを凌駕する圧倒的な才能があるからです。「やる気に差がある」からではありませんので、エも不適切といえます。

問七 B1 関係づけ

線⑥のたとえば、直前に示されているように、自分がブラバンで演奏することで、周りのみんなに迷惑をかけ、自分も「ひとりぼっち」になってしまう、そんなことを「幼稚園のころから」くり返してきて「嫌な思い出しかない」のに、ブラバンに「わざわざやってきて」、また傷ついている「ぼく」のことを指しています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八 B1 理由 推論

線⑥の直後の段落に注目です。そこには、自分がブラバンで演奏すれば周りに迷惑をかけ、自分も傷つく、それがわかっているのに、ブラバンに参加してしまう理由が書かれています。「もしかしたら：金色のカタツムリに、触れていたいのだろうか。遠雷みたいな音を、自分も出してみたいのだろうか」の部分です。「ぼく」は、自分が音楽に関われば苦しむことはわかっているのに、フレンチホルンという楽器に惚れ込んでから、音楽から離れられないのです。その残酷さに気づき、さっきの曲の続きを吹きはじめ、涙しています。このことに触れられている選択肢はアです。イ「距離をおかれてしまうとわかった」とありますが、これは幼稚園のころからわかっていることです。

ウ「楽しんで吹けた」の部分が不適切です。エ——線⑦の二行後で「まさか、ヒゲクマに…邪魔されたのが…」とあって、これは「わからない」と否定されています。

問九 B2 関係づけ 推論

ヒゲクマは、「ぼく」が「譜面どおり」に吹けるのは、譜読みをすませていたからだと思っていました。しかし、ここで、「ぼく」が「譜面どおり」に吹けるのは、「さっき、CDで」聞いたからであり、しかも、ホルンを始めて一か月の初心者であることを知ります。「ぼく」には、最初に想定していた以上の才能がある、とヒゲクマはここで気づいたのです。そして、自分も「ホルン吹き」であることを打ち明け、「おもしろいこと、しょか」と言っています。ここから、ヒゲクマが類いまれな才能を持つ「ぼく」と、音楽を通して関わりあいたいと強く思っていることがわかります。よって答えはイです。アは「ぼく」の才能に気づいた部分に触れられていません。ウ「ホルンの経験者」の部分不適切です。エ音源を聞いただけでそのとおりに吹けることに対する驚きは——線⑧の三行前の「息をのむ」で表現されています。その後の部分がぬけているので、イの方が適切であるといえるでしょう。